



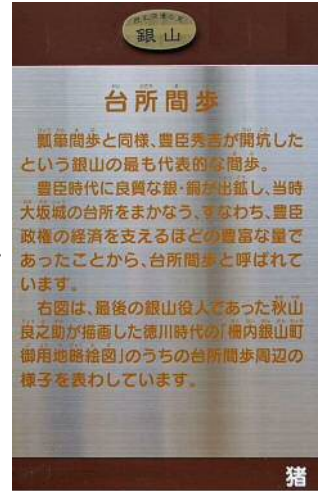
衣川 史郎

『多田銀銅山 20』

先月の『夢通信』に続いて今月も多田銀銅山の記事です。この鉱山は兵庫県猪名川町・川西市・宝塚市、大阪府の池田市・箕面市・能勢町・豊野町の7市町に広がり、鉱脈は銀山・奇妙山・七宝・高山の四つの主要鉱床に分かれています。

その歴史は奈良時代までさかのぼるとされ、東大寺の大仏鑄造の際に銅を寄進したと伝承されていますが、定かではありません。この銀山地区が注目を浴び始めたのは天正年間の後半に入ってからです。豊臣秀吉が絵師、狩野山楽に青色の顔料が採れる『紺青間歩（こんじょうまぶ）』の採掘権を与えたのは天正14（1586）年。その翌々年、冷泉為満（戦国時代後期から江戸時代初期にかけての公卿、歌人）が多田銀山を見物したと文書に残っています。この鉱山は豊臣家の豊かな財源になりました。大坂城の台所を支えたと言われる『台所間歩』、秀吉の権威を誇った『瓢箪（ひょうたん）間歩』が有名ですが大露頭（だいろとう＝地表に露出した鉱床）などもあります。この時期が多田銀銅山が活発に稼働した最初です。

多田銀銅山の見学が3月2日に実施されることになった理由は、この日、新名神高速道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査で現在行われている、猪瀝谷（多田銀銅山坑道跡）及び観音寺跡（広根字堂ノ上付近、広根奥の谷交差点南西側）の現地説明会が1時30分から開催され、これに参加するためです。遠く離れた山中の狭い谷間にある銅の採掘・精錬遺跡には100名を超える歴史や技術の愛好者が集まっていました。学芸員の説明を聞きながら、ぬかるんだ谷筋の道を長靴で歩き、昔の鉱山職人の思いを感じました。調査報告書にはその成果を以下のように記していました。



猪



現地説明会風景



焼窯



要石

猪瀝谷坑道群間歩ケ谷支群の調査成果

- ・調査の結果、江戸時代後期から明治時代にかけての銅鉱石の採掘坑道と、精錬に関連する作業施設が見つかりました。
- ・坑道は1・2号坑道の2か所が検出されました。1号坑道は調査区南端で検出されたもので、断面方形（1辺1.5m）の間口で立坑になります。さらに、底の部分（地表から約2.3m）で4方に横向きの坑道伸びる構造となります。2号坑道は高さ1.2m、幅0.7mの規模で、奥行き20m前後です。
- ・作業施設は比重選鉱のための水槽3基、精錬のための窯2基、さらに作業のための小屋（礎石建物）2棟などがあります。
- ・水槽は2号坑道に隣接して検出されました。1辺80～90cm、深さ30～40cmで、四方を板張りにしています。
- ・今回の調査は坑道と選鉱から精錬に至る一連の作業場が、セットで発見されたもので貴重な成果となりました。

坑道入り口と水桶



銅鉱石の採掘から精錬の工程については来月号で詳細に説明します。お楽しみに！

「鉄のふしぎ博物館」

来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目がかわりますよ。
ぜひお越しください。

